

2024年3月5日

発行者 児童相談所のあり方を考える地方議員の懇談会

調査実施者 児相と親子の架け橋千葉の会

第3回「一時保護を経験しての心身不調」

実態調査報告書

「一時保護を経験しての心身の不調」の実態調査を行った。本調査は、当事者団体 児相と親子の架け橋千葉の会の協力により実施され、全国から58名の回答者の協力を得ました。調査の設問内容に、保護された子ども本人のことを聞く設問か、親、兄弟、祖父母等親族に対する設問かがとらえにくい方法で聞いてしまったことで、困惑を与えた点申し訳ありません。回答者の自由記載欄においては、上記の分類が分かるよう回答者が記載くださっている傾向があり、こちらで、子どもの様子を伝える回答を緑色でマークし、親の様子で注目部分には青色でマークして解説を行います。

概要

調査の目的

現在わが国では、親子が切り離される一時保護が、調査のためという程度のあいまいな理由で実施されてきている。親子分離、一時保護を通じて、保護された子ども本人とその親をはじめとする家族の身に、どれだけの心身の負担、メンタル不調が発生しているかの実態調査を行った。「親子分離という行為は、あらゆる手を尽くした上で、当事者の言い分を十分聞き、最後の手段としてのみ許される」という国連勧告に示されるよう、重篤なケースのみで使用される手段が、安易に拡大実行されている実態によって、どれだけの不利益と苦しみを国民に与えているのかを明らかにする目的で調査を行った。

調査の根拠法令

厚労省 平成30年度 一時保護ガイドラインについて

調査の対象

一時保護を経験した当事者の子どもとその保護者、親族、里親、等。

抽出方法

当事者団体「児相と親子の架け橋千葉の会」と一時保護を経験した親が作る団体へオンラインアンケートを行った。

調査事項

4項目の質問と自由記述を設け、子どもへの質問には承諾をとった。

調査の時期

2023年12月から2024年1月までに行った。

調査の方法

個人が特定できる内容は書かないことを前もってお願いし、インターネットフォームによるアンケートを行い、1つのアカウントで1度のみ回答とした。

いたずら防止のため、回答者はSNSやHP等で拡散して募集せず、各団体の会員や身元の分かる当事者のみに行った。

今後の資料として公開することに同意を得て、子どもへの質問は承諾をアンケート内に設けた。

調査の結果

調査報告として別紙記載する。

以下、このアンケート結果より以下の点が読み取れる。

- ① 子 67%、親 94%、祖父母親族 49%に心身不調出現
- ② 子の不安、怯え、不眠、楽しみにしていた行事に参加できず、不登校など出現
- ③ 「不調の親」を理由に親子分離されると心配し受診控えた、と多数から訴え
- ④ 児相対応を疑問視する医師等が現れ、児相に意見を述べる事例が発生

調査報告者 児相と親子の架け橋千葉の会